

100年前のクリスマス



賀川は、生活に困っている人々の救済活動をしてきた命の恩人「長尾牧師」の存在を常に心に留めていました。そして、1909年12月24日、神戸の貧しい人々が多く暮らす新川に移り住み、自ら救済活動を始めました。賀川が21歳の時でした。ここでは、人々にキリスト教を説きながら、一善飯屋「天国屋」を開店するなどの活動を展開。その一方で、「もらい子殺し」という慣習に心を痛めた賀川は、子どもの権利を

主張し、保育事業なども展開していきます。これらのことは、1999年12月に、ユニセフ国連児童基金の世界児童白書にて、賀川豊彦が「子どもの最善の利益を守るリーダー」として、世界の52人の一人に選ばれることにつながっていったのです。

